

令和7年度 第1回 社会教育委員の会議 摘録

- 【日 時】 令和7年7月25日（金）15時00分～17時00分
- 【場 所】 大牟田市 生涯学習支援センター 1階 多目的室
- 【出席委員】 弓削委員、伊藤委員、堺（婦）委員、松尾委員、田中委員、江崎委員、江寄委員、久保委員、柿川委員、堺（裕）委員
- 【欠席委員】 中村委員、西田委員、江口委員
- 【行政関係者】 大倉野市民協働部長、松枝市民協働部副部長、徳川生涯学習課長、浦川生涯学習課地域学習担当課長、佐藤人権・同和・男女共同参画課長、西村スポーツ推進室長、小野世界遺産・文化財室室長
原武生涯学習課社会教育主事、藤木生涯学習課社会教育振興担当職員

◆委嘱状交付

今年度は、小学校長会 横田委員、中・特別支援学校長会 竹谷委員、小・中・特別支援学校PTA連合会 蒲原委員の退任により、後任の中村委員、弓削委員、伊藤委員へ委嘱状を交付（中村委員は欠席のため、会議終了後に送付）。

任期は令和8年6月30日までの1年間。

◆あいさつ

大倉野市民協働部長

◆自己紹介（委員および職員）

令和7年度社会教育委員の名簿順に自己紹介、続いて行政関係各職員の自己紹介を行う。

◆社会教育委員の会議について

社会教育法・社会教育委員設置条例や社会教育委員の職務、委嘱基準等について、原武生涯学習課社会教育主事より説明。

◆福岡県社会教育委員連絡協議会評議員について

前期同様、堺（裕）委員に委任することを周知。

◆議事

（1） 令和6年度社会教育委員の会議等実績報告及び令和7年度事業計画（案）について

事前配布資料「令和6年度 社会教育委員の会議等事業実施報告」、「令和7年度 社会教育委員の会議等事業計画（案）」を基に、原武生涯学習課社会教育主事より報告・説明を行った。（意見・質問なし）

（2） 令和6年度社会教育振興プランの進捗について

参考資料 3「大牟田市社会教育振興プラン 2024～2028」および資料冊子内資料 3 の P. 6 ～ P. 7「令和 6 年度社会教育振興プランの進捗について」に基づき、松枝市民協働部副部長より説明と報告。以下の意見・質問が出た。

議長	資料を見ると、令和 10 年度に向けて設定された目標値を、令和 6 年度の時点で既に満たしている事業がある。この事業の目標値は上げていく予定があるのか、それとも、隔年で目標値が更新されるものなのか。目標が達成されたのならば、数値を上げなければならないのではないかな。
行政職員	大牟田市の事業には、目標値を徐々に上げていくケースと、毎年の達成値の推移を見守るという 2 種類のケースがあるが、本会議の資料のプランについては、参加者が毎年変わるような事業もあることから、令和 6 年度で達成されたとしてもそこでただ目標を変えるのではなく、参加者が変わっても毎年同じような成果が上げられるよう、目標値を掲げる体裁をとっている。 P.7〔取組み 3〕の 6、生涯学習ボランティア登録派遣事業については、登録者の年々の新規増加が難しいため、現在の活動状況を維持できるように支援する考えである。
議長	目標を達成したからといってテコ入れを行うのではなく、達成値の継続を目指すということによいか。
委員	P.6 視点 2〔取組み 2〕の 3 の内容について質問したい。各地区公民館での発足目標「15 団体」に対して「14 団体」となっているが、これは新規サークルの数なのか、それとも登録サークルの合計数なのか。現在、活動中の定期サークルの数自体が少ないので、7 地区館での文化祭の開催・運営が大変であるという問題がある。数値としての目標は達成しつつあるが、定期登録者の数が少ないと、定期サークルありきの文化祭などは立ち行かなくなるのではないかな。
行政職員	貴重な意見に感謝する。その通りである。プランでは基本的に、地域で継続して活動する定期サークルの発足を目標としているが、実際のところ、登録された一般サークルの半分程度しか定期サークルに発展しない。文化祭については、一般サークルも含めて運営を手伝い、提携できるよう仕組みを変えつつ、各館にてやり方を模索しているところ。
委員	私が今担当しているサークルは、全て定期サークルに移行している。また、一般サークルについても『文化祭には必ず協力しなければならない』という取り決めを行っている。他の公民館ではどうなっているのか伺いたい。仕組みが変わらないと、サークル連絡会の費用自体も賄えなくなる。大きな問題だと思うが。
行政職員	ご指摘の通りである。サークルの会費が運営費となるため、厳しい状況も起こっている。今後も検証を行っていきたい。
委員	同じく〔取組み 2〕の 4、「高校生まちづくり部」の項目について、とても大事だと考える。事業に参加した高校生の人数、また、学年の比率はどの

	ようなものか、事業に１度参加した高校生は繰り返し活動しているのか、状況を知りたい。
行政職員	昨年度の発足で、活動に参加した高校生は１４名。市内で２校以外の全ての高校から学生が参加している。構成としては３年生が全体の半分ほどを占めていた。本年度も２・３年生が多く、１年生が少ない。高校生は継続がなかなか難しい実情がある。
委 員	子どもたちが小学校・中学校と、ＳＤＧｓで学習している繋がりがあるのに、もっと大牟田のまちや地域について考えられないのだろうか、と思っている。先の委員に続いてボランティアの話になるが、海外では随分昔から、学校でのクラブ活動として「ボランティアクラブ」があった。「はたちの集い」にも学生がボランティアとして参加しているが、ボランティアをクラブ活動として採用し、単位の取得に繋がる取組みを実施している高校は、市内にどれほどあるのか。
行政職員	全てではないが数校存在する。
委 員	そういった活動や体験を積み重ねれば、「高校生まちづくり部」の活性化や、学生たちが地域について考えるきっかけに繋がるのでは。
委 員	活動に関わる学校や先生が行政の取組みに協力的であるか否かによって、結果が大きく変わってくるように感じられる。
委 員	「行政」というだけではなかなか難しいかと思われる。純粋にボランティアというものについて考えられる環境でなければ。
行政職員	「高校生まちづくり部」の活動については、高校生が行政に協力する、というイメージではなく、出来るだけ、ボランティアに携わる労力として活動してもらっている。
委 員	私の知る中学校では、夏休みの午後に１週間ほど、全学年で学習会を行っているが、その学習会で高校生ボランティアが活動中である。『高校生に学習ボランティアを依頼したい』と各学校にアポイントを取ったところ、市内の高校５校から３０名余りの学生が手を挙げた。毎日平均１０名程度の高校生が、『教える』というよりは『知恵を貸す』というスタンスで、中学生の学習のサポートを行っている。 個人的な意見として、何かを行うときには、事前からハードルを上げるべきではないと考える。学生にとっては、いきなり「まちづくり」を意識するのは難しく怖いことだと思う。しかし、自分たちにできることは何かを考えてもらうきっかけを与えることはできる。この学習会での活動についても、『高校生が中学生に勉強を教える』ことではなく、『よい先輩像を見せる』、『高校は楽しいよ』と伝えることに重きを置いている。学習会の様子を見ると、子どもたちが互いに引っ張り合って協力することが出来ている。大牟田市は他市と比較して、物事に反応のいい子ども達や地域に関心を持った志ある高校生が育っていると強く感じるので、ハードルの低い、例えば社会教育委員と集まって喋るような易しい取組みの機会を設けるだけでも、そ

	れが学生によるまちづくりに繋がっていくのではと思う。
行政職員	大人と対話すること、会話することが学びに繋がるという意見に、非常に同意する。市の事業に参加した高校生から『地域の人と話せて良かった』という感想が多く寄せられた。話すこと自体が良い体験になったようだ。
議 長	目標値に満たない項目は、今後とも努力していただきたいところである。

(3) 令和7年度社会教育・生涯学習事業計画について

資料冊子 資料4「令和7年度社会教育・生涯学習事業計画」に沿って、松枝市民協働部副部長より説明。以下の意見・質問が出た。

委 員	スポーツに関しては、今年12月に体操のトップアスリート発表会を開催、公開すると聞いている。
委 員	8月に実施予定の世界遺産・文化財室のイベントについて尋ねたい。開催会場はどこなのか。
行政職員	大牟田文化会館小ホールで開催する。大牟田市の世界遺産は、宮原坑だけで登録されたわけではない。日本では、欧米で200年掛かった産業革命が50年で成し遂げられた。本市において大きな働きを果たしたのが、明治時代から現在も稼働している三池港であった。他市を挙げると、例えば八幡製鉄所は、現在も製鉄を続けているため見学が難しいが、三池港はいわゆる「稼働遺産」として、市民に非常に身近なものとなっている。ちなみに、八幡の子ども達と本市の子どもたちは、世界遺産を通じて互いに交流がある。 今回のイベントは、小学生ボランティアガイドによる宮原坑の紹介など、大牟田の魅力を再発見できる催しとなっている。
委 員	現在、市内の公民館ではロビー展が開催されている。大牟田市といえば宮原坑が有名であるが、それだけでなく、昔はその他にも炭鉱があったのだという歴史が垣間見られる写真の数々が展示されている。その昔稼働していた発電所の写真も見ることができる。
行政職員	反射炉を建造した鹿児島、元御家人が幕府の技術を学んだ佐賀など、全国が関わって成されたのが明治時代の産業革命である。本市は炭鉱と鉄道によって発展したが、三池港の恩恵により、産業革命後に大きな衰退を免れることができた。現在も市内には、他市に比べて工業系の学校が多い。大牟田市の10年後に繋がれるよう、世界遺産を通じてまちの魅力の種蒔きを行っているところである。
委 員	先述の公民館ロビー展では、市の発展に寄与した鉄道の写真も展示している。是非ご覧いただきたい。
議 長	P.15の「文化芸術が生み出すまちの魅力アップ事業」について、本市に演出家を招聘するのは容易なことなのか。
行政職員	①は、市内小学校をモデル校とし、演劇を通じて子どもたちのコミュニケーション能力を育てることを目的とした事業である。本年度は、以前 本事業

	に携わられていた演出家の平田オリザ氏から紹介を受けたチームを招いて実施する。 小学校の授業の中で2枠を利用して演劇について体験を行ったのち、2週間後に再度、子どもたちに演劇してもらおうと、子どもたちの表現が変化しているのが分かる。子どもたちが自ら班を作り、役割を決めるなど、つまるところ『落としどころ』の学びに繋がっているのだと考える。 ②は本年度初めての事業。本市の文化振興審議会会長のアドバイスを受けてながら、市内の高校生がデザインした衣装を、高齢者など多様な市民に纏ってもらって披露するファッションショーで、12月に市内大型商業施設にて開催予定。この事業は、文化芸術を通じた生きがいの創出を目指すものである。
議長	他者との関わりや共感が難しく、またその機会が少ない世の中であるので、子どもたちの教育には是非、この事業のようなワークショップを利用して欲しいと考える。
委員	文化芸術の繋がりで尋ねたい。祭りや踊りなど、300年以上、400年近く続いている本市の伝統芸能を、今後どのように継承していくか、何か予定はあるか。市内3校の小学校にて伝統芸能を受け継いでいるが、指導者の高齢化が進み、本当の意味で『踊れる人』が減少している。どのように考えているのか。
行政職員	現在、文化芸術振興プランに沿って事業を進めているが、残念ながらその中に、伝統芸能に関する取組み内容の記載はない。しかしながら、伝統を次の世代へ継承することは非常に重要である。地区公民館にて、それぞれの地域に伝わる伝統芸能を、実際にそれらに携わって活動している市民から若者に向けて教えるワークショップ形式の事業を開催した経緯がある。市として今後とも、そういった働きかけを続けていく予定。
委員	公民館の文化祭などでの伝統芸能の発表会でも、よく『踊る人が少なくなった』という声を耳にする。文化はあっても踊り手が居ない状況である。これが長く続けば、伝統芸能が消えてしまう可能性がある。
議長	伝統芸能は、その地域の人の営みや関わり、繋がりを知るための大事な宝である。
委員	先人の苦勞が踊りや芸能に発展したものも多い。
議長	社会教育の基盤にも繋がると思われるので、これまでの意見を是非、今後の事業の参考としてもらえればと考える。会議資料を見るに、社会教育に関する項目が120以上に及ぶのは凄い事である。社会教育委員として喜ばしい。本年度はこれらの実現を目指すとのことで、その成果がどうなるのか、委員の意見をいただきつつ進めていきたいと思う。
委員	P.1の通学合宿は現在も実施しているのか。
行政職員	新型コロナウイルス感染症の影響によって5年間実施がなかったが、本年度9月中旬に再開される予定。市内校区のPTA会長が熱をもって取り組ん

	でくださり、復活の運びとなった。
委 員	通学合宿は素晴らしい取組みだと考えている。とても喜ばしい。人手が足りなくなれば助力したい。
議 長	他の事業とともに、是非とも今後に繋げていきたい。

(4) その他

- ・市民協働部関係施設供用駐車場の整備について

資料冊子 資料5「市民協働部関係施設供用駐車場の整備について」に基づき、徳川生涯学習課長より説明。(意見・質問なし)

行政職員	他に何か意見や質問はないか。
委 員	本市における「周知」について意見を述べたい。情報に関して『知らない』ことは『分からない』と同様だと考える。市として周知というものにどのように注力しているのか。広報おおむたやLINEは触れる機会が限られている。情報が次々に流れてくれば、市のイベントや行事などに興味を抱くことが出来るが、具体的な情報がどこにどのように公開されているのか、どこを探せば良いのか非常に分かりづらい。 また、参考資料2「大牟田市社会教育委員設置条例」について、「15人以内」とある。先に高校生による活動の紹介があったが、高校生はこの条例を知っているのか。何なら幼稚園から広めていけば、本市の社会教育に対する意識がより高まるのではと考えるが、どうか。
行政職員	市からの情報発信について、大きなベースは広報おおむたや愛情ねっと、他には公民館での掲示にて行っている。予算を掛けての情報発信は、なかなか難しい。たびたび問題として取り上げられるところである。
委 員	市の周知についてはそれで良いかも知れないが、例えば、学校主催のイベントなどはどこを調べればよいのか。
行政職員	愛情ねっとやFMたんとで開催情報を知ることができる。市の催しについては、イベント本体を含めた情報の発信までをひとつの事業であると考えている。しかしながら、告知の方法によって周知にばらつきが出てしまう。是非ヒントやアイデアを寄せて欲しい。
委 員	広報おおむたにも、掲載されている事業と掲載されていない事業がある。また広報誌は、知ろうと思って開かなければ情報が入手できない。
議 長	受け取り側が欲しい情報を、分野ごとにひと目で分かるような仕組みがあれば良いのでは。
委 員	子どもとどこかへ遊びに行きたいと思っても、市のホームページは、色々な階層で分かれているために情報を探すのが一苦勞である。地域のイベントなどの欲しい項目がすぐ表示されれば非常に助かる。何かに参加するにも、情報を知らなければ行けない。
委 員	地区公民館に足を運べば、概ねのイベント情報を入手することができる。

委 員	スマホを駆使する若い世代が地区公民館まで足を運ぶだろうか。
委 員	本市のイベント告知については、以前から意見を述べているが、なかなか改善がみられない。公民館で活動するサークルも、複数の公民館を回らないと情報を周知・入手出来ないため、苦勞が多い。
委 員	生涯学習への参加の機会が失われてしまう可能性がある。とても勿体無いと感じる。

◆委員等より報告・案内

原武生涯学習課社会教育主事 … 世界遺産・文化財室のイベント「世界文化遺産登録10周年記念のつどい」の周知依頼

柿川委員 … 市内商業施設内駐車場で開催される2校区合同での大蛇山まっりの告知

⇒次回会議 令和7年11月 予定